

一般教育総合コース

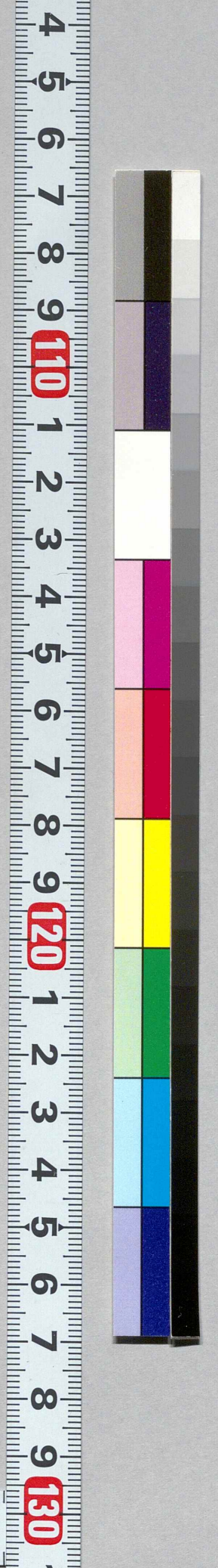
現代社会における

人間と自由

1963年度



お茶の水女子大学



## 目次

### プロローグ 学習上の手引

オ一	哲	学	藤田健治	3
オ二	心	理	波多野完治	5
オ三	文	学	鍋島能弘	6
オ四	芸	術	谷田開次	8
オ五	物	理	阿波三郎	9
オ六	生	活	稻垣長典	10
オ七	生	物	岡徹	11
オ八	生	物	太田次郎	12
オ九	地	理	渡辺光	13
オ十	正	史	尾鋸禪彦	14
オ十一	政治・社会		蠟山政道	17
オ十二	聖	濟	安藤良雄	19
オ十三	法	律	井上茂	20

### 講義日程

## プロローグ 学習上の手引

### 1. 一般教育と総合コース

一般教育の目的は、将来専門科学の学修に進むべき諸君の系統的知識の把握、事実と理論の関連の解明、思考力と鑑賞力の涵養、社会的判断力の養成に資し、将来各自の専門分野を超えた市民としての責任を果たす能力を育成せしめるにある。

そのためには、教授も学生も共に一般教育の課題と方法について十分な考慮を払わなければならない。人文、社会、自然科学の三系列に岐れ、さらに各系列ごとに専門分化が行われている現在の一般教育は、諸君が自己の専門とすべき科目以外のものを学修しようという便益があり、また将来の専門学科の基礎学として役立つ効果がある。しかしその間、総合性が欠如している憾があって、一般教育の目的に十分とっているとは言い難い。そこで37年度から、ここに一案として、人文・社会及び自然科学にあたる一般教育「総合コース」を試みようとする。

一般教育の目的に鑑み、その総合性を確保しうる課題としては、人類の形成した偉大な文化、例えば、ギリシア・ローマ文化、近代文化及び現代世界、東西文化の比較、現代社会における人間の諸問題等が考えられる。37年度は最初の試みとして「ギリシア・ローマ文明」を取り上げた。32年度は「近代社会と人間」、33年度は「近代社会の動向と人間関係」、34年度はコースをA、Bに分け、「現代における自由と進歩」を課題とした。(A=オ一年生向、B=オ二年生向)

35年度はAコースにおいて「東と西」、Bコースにおいて前年度に引きつづき「現代における自由と進歩」を課題とし、36年度は「東と西」(ただしオ二年生向)を、37年度は「ギリシア・ローマ

文化」を課題とした。

## 2. 総合コースの内容と方法

この総合コースは、わが国はじめての試みでもある。事情の許すかぎり、課題の分担について総合性を発揮しうるように考慮した。時間も合計60時間(毎週1回2時間)を適当に配当し、教材・参考書及び視聴覚資料等についても極力諸君の便宜をはかりたい考えである。

## ○オ一 哲学的人間観より見たる 自由の喪失とその恢復について

藤田健治

### オ一回 人間存在の根本的あり方

#### (a) 生命——自然的欲求の主体

生きんとする意志——自己保存と種族保存

*food supply* と *tribe supply*

権力と利益の追及——政治と経済

#### (b) 精神——文化活動の主体

生命よりの超越と理念への転回

理念の純粹性・自律性と生命への適用(技術とモードと世論)

——エリート性と大衆性。

#### (c) 実存——かけ換えなき個的人間存在

精神的エリート性と道徳的人格の捧の棄却——神の前の実存と

神なき実存——限界状況と実存的交わり又は語り。

### オ二回 人間的自由の本質——自己本来のあり方を何等阻害される ことなく発揮しうる状態。

自由の喪失(自己喪失)の種々相——自己疎外。

人間のあり方の相互関係によるもの。

#### (a) 精神又は実存の強調による生命の喪失。

#### (b) 生命又は実存の強調による精神の喪失。

#### (c) 生命又は精神の強調による実存の喪失。

1) 刺激の多様化と強化と反応の限界——異常性の追及

2) 社会のメカニズム——アノミカ——機械化と平均化——

マス・メディア——国家の神話(カッシーラ)とマン(ハイデッカー)

3) 科学技術の極度の発達——核兵器による人類壊滅の可能性

(ヤスパース, ラッセル)

恢復の方向付け

- (a) 人間のあり方の多様性と恢復の多様性——それぞれの世界の向題の独立性と解決の独立性。
- (b) 人間のあり方の相互関係と恢復の相互関係——土台付けと意味付けの關係——それぞれの世界のみの向題追及の限界。

〔参考書〕

- Jaspers, *Die geistige Situation der Zeit* (現代の精神的状況, 飯島栄亨訳 河出書房)
- Existenzphilosophie* (実存哲学, 鈴木三郎訳 理想社)
- Einführung in die Philosophie* (草薙正夫訳 新潮社)
- Heidegger, *Sein und Zeit* (存在と時間, 松尾啓吉訳 勁草書房, 桑木秀訳 岩波書店)
- Sartre, *L'être et le Néant* (存在と無, 松浪信三郎訳 人文書院)
- L'Existentialisme est un Humanisme*
- Bollnow, *Existenzphilosophie* (実存哲学概説, 塚越金子訳 理想社)
- Wahl, *Les philosophies de L'existence* (実存主義入門, 松浪高橋訳 理想社)
- Heine mann, *Existenzphilosophie, lebendig oder tot?* (飯島栄亨訳)
- Löwith, *Von Hegel zu Nietzsche* (ヘーゲルからニーチェ, 柴田治三郎訳 岩波書店)
- Cassirer, *The Myth of the State* (国家の神話)
- Fromm, *Man for Himself* (人間における自由 谷口早旻訳 創元社)
- The Escape for Freedom* (自由からの逃走 日高六郎訳 創元社)
- The sane Society*
- Riesmann, *The Lonely Crowd*
- Whyte, *The Organization Man* (組織の中の人間 西野藤永訳 創元社)
- Russel, *Common Sense and nuclear Warfare*

○オ二 心 理

波多野完治

オ一回 コミュニケーションから見た現代社会<sup>(含)</sup>心理の特徴

- (1) マス・コミュニケーションとパーソナル・コミュニケーション
- (2) 映像的コミュニケーション
- (3) 自我表出と同一化
- (4) 表現の自由の向題

オ二回 大衆社会の心理学

- (1) 不安状況
- (2) 権威主義的心理
- (3) 大衆社会における自由
- (4) 脱出の道

〔参考書〕

- マンハイム (高橋青井訳) 現代の診断 みすず書房
- 樺 俊雄 知識社会学 誠信書房
- オールポート 人間形成 〃
- リースマン (佐々木他訳) 孤独なる群集 みすず書房
- ミルス (鶴飼綿貫訳) パワー・エリート 東大出版会
- フロム (加藤佐瀬訳) 正気の世界 社会思想研究会出版部

〇才三 文 学

鍋 島 能 弘

才一回

1. エロスとアガペとの矛盾と、19世紀以来の決定論への反動
2. 1930年代から以後、人間性の本質的自由の探求と意識の世帯への沈潜。
3. 表現の上では、意識と象徴主義の手法。
4. 早い例は D. リチャードソン、V. ウルフの小説。
5. 遅くは G. グリーン、E. ボウエン、ムージル、ブロッホの小説

才二回

1. 1930年代の社会主義の文学。これは個人主義への対立。
2. 以上の例は J. M. マリー、スタインベック、ゴールドウェルの小説。
3. 1940年代には、実存主義が起り、これも前代における意識への閉心を含む。その例としてサルトルとカフカの小説。
4. 最後にエロスとアガペの妥当としての「キリスト教的実存主義」
5. 自由の主張と全体主義への怒り。例として G. オーウェルの小説「1984年」

【参考書】

作岳： V. ウルフ「燈台」「波」「ダロウエイ夫人」— G. グリーン「情事の終り」(『世界の文学』50. 中央公論社)— E. ボウエン「白ざかり」— ムージル「若いテルレスの惑い」他(全48.)— ブロッホ「夢遊の人々」(全)— スタインベック「怒りのぶどう」(『世界文学全集』河出書房)— ゴールドウェル「タバコ・ロード」他(角川文庫)— サルトル「全集」(人文書院)「水いらず」「汚れた手」他(『世界文学全集』河出書房)— カフカ「城」「変身」他(『世界の文学』39)(『世界文学全集』河出書房)— G. オーウェル「1984年」

一般文献： M. Friedman「意識の流れ」— H. Meyerhoff「文学における時間」— A. A. Mendilow「時間と小説」— W. C. Booth「小説のレトリック」— Leon Edel「心理主義の小説」(1900~1950)

○才四 芸術における自律・自由・人間

谷田 蘭次

才一回 現代芸術の輪郭 — *l'art pour l'art* — 芸術の解放  
と自由 — 芸術における奉仕の問題。

才二回 作家と作品 — 対話としての芸術体験 — *l'art pour  
la vie* — 芸術における人間。

【参考書】

- (1) 図版の豊富な美術書たとえば世界美術全集（角川書店・平凡社等の）、世界美術大系（講談社）などで美術作品に触れておくことが望ましい。
- (2) 講義テーマに関連あるものとしては
  - Herbert Read: *Art Now*, 1948.
  - " *The Philosophy of Modern Art*, 1948.
  - " *The Meaning of Art*, 1951.
  - 谷田蘭次: 生活造形の美学, 頁. 35.

○才五 科学と技術 — *Physical science and  
technology*

阿 阪 三 郎

今世紀に入って以来の科学と技術との発達は大いに目ざましく、しかも加速的である。物理学に就いていっても、相対性理論の完成、量子力学の誕生とその発展に伴い、物質の構造、宇宙の進化などの最も基本的な問題についての理論の基礎が築かれるにいたり、一方、自然法則の認識の根柢についての論議をも引きおこした。また、化学・工学の発達と相まって、多種多様な新材料や、強大な能力・高度な機能を備える機器を産み出し、我々の生活様式を改善する一方、原子爆の脅威にさらすなど、社会・経済の動向に甚大な影響を及ぼしている。

このように科学技術の発達とそれに基づく社会の変動があまりにも急速かつ広汎であるため、ともすればその中で人間の主体性すら見失われる恐れが生じている。このことについて我々は深刻な考察・反省をせねばならないと思われる。科学技術に就いて、上記の諸問題を、物理的科学 *Physical science* の面から考えて見たいと思う。

○才六 生 活

稲垣長典

現代の栄養・食品学が基礎栄養学、基礎食品学を根幹とする体系に調理学と呼ばれる側面を包含しつゝ、総合食物学の形のもとに人類の福祉に貢献しつゝあることは、今日の栄養、食品学の注目すべき動向である。即ち対象を個人並びに公衆にとり、生活環境との関連において食生活を考え、すべての国民が健康的な生活を営むようあらゆる面から研究せんとするものである。各個人が社会を形成し、そして国家をつくっている。個人の健康が国家の健康になり、健全なる国家が出来る。「健全なる精神は健全なる肉体に宿る」と言われる、健全なる身体をつくるには、正しい食べものが必要である。即ち正しい食べものによって健全なる身体がつくられ、それによって健全なる精神がつくられてゆく。

言いかえれば正しい食べものが健康な人をつくり、そして国家が繁栄する、結局、食べものの良否が国家繁栄を左右する。

〔参考書〕

- ・稲垣長典 食物学概論 国土社
- 「食べものがあなたをつくる」 筑摩書房

○才七 生 物

岡 徹

1. 原始人の食糧採集生活・食糧生産生活による人智の進展。
2. 人口の量と質とから見た *Graeco-Roman* 文明の興亡。
3. 人口問題と食糧問題
4. *Malthus* の人口論と *Liebig* の植物栄養説 および *Darwin*・*Wallace* の淘汰説
5. *Galton* と 優生学、逆淘汰と民族衛生学、断種法
6. 民族の退変と人口の量と質
7. 自由と生存競争。生存競争と社会。経済政策。

〔参考書〕

- ・ブリテン, R. (西野入徳訳) 世界の食糧問題 上・下 岩波新書 192-193
- ・ジューメンス, H. W. (神波比良夫訳) 遺伝学説と優生学 内田老鶴圃
- ・大倉興司 病氣と遺伝 創元社

○才八 生 物

太 田 次 郎

才一回

生物学的に見た人類の発展の歴史を概説し、人類文化の発生・発展などをもとに、現代社会における人間を論じる。

才二回

近年における電子工学の発達の出産物である、いわば機械の頭脳ともいえるもの（計算機など）と、人間の頭脳とを対比して、人間の特徴をとらえ、現代における人間を論じる。

○才九 地 理

渡 辺 光

現代において「自由」主義といひ慣らされている考へ方の発生  
の有力な由来の一つを、通商都市の発生に帰し、世界における  
古代都市の性格の *Pattern* を政治都市・宗教都市・通商都市  
*etc.* に分類して、それらの地域的配置とその背景となる自然  
人文にわたる地理的条件との関係に及ぶ。

1) *Hydraulic civilization* の地域

2) *Greco-Roman* 地域

3) *Monsoon Asia* の地域

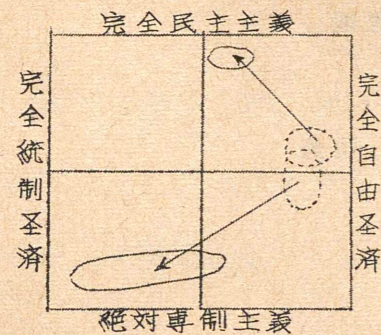
につき考察する。



1. 現代とは何か

- A. 時代区分における現代の出発点
  - d. 19世紀 8.90年代
  - b. 1914年
  - c. 1917~18年
  - d. 1945年
- B. 歴史の流れの中における「現在」の意味
  - d. 現在を仲介とする過去と未来のつながり
  - b. 未来の予測の可能性
  - c. 歴史における法則性

2. ライシャワーの近代化図表



- A. ライシャワー図表の特色
  - d. 二元的考察の長所
  - b. 自由～統制および専制～民主の意味
  - c. 両極化の展望
  - d. 説の動搖
- B. 図表化の効果と取扱い
  - a. 新しいアイデアを発見する一方法
  - b. 数学的図表とのちがい
  - c. 図表は論証とはならぬ

C. ライシャワー図表の批判と修正

- d. 自由～統制ではなく 個人主義～社会化
- b. 量より質への転換の表示
- c. タテ軸とヨコ軸の時代のずれ
- d. 全体主義と自由経済についてのアメリカ的考案

3. 自由の意味

A. 語義

- d. 自由
- b. *liberty*
- c. *freedom*

B. 人間性と自由についての諸説

- d. ルネサンス的人間像
- b. 資本主義社会における人間疎外
- c. 近代民主主義における人間性と自由
- d. 共産主義における自由

4. 近代史、現代史の体系

A. 社会形態についての段階理論

- d. 一元,多元と一系,多系
- b. 近代史の一系性
- c. 近代以前の多系性

B. 現代史の多系性

- d. 一系史観の主観性
- b. 多系性の客観性
- c. 多系性と主体性

C. 国際秩序における自由

- d. ナショナリズムの盛行
- b. 多民族国家の優越

〔参考書〕

- ・尾鍋輝彦 近代の原理とアジア 思想, 33年5月号
- 〃 現代史の多系性 人文科学紀要 13巻 35年3月
- 〃 私の歴史教育論の基礎にあるもの—家永三郎氏に答えて—  
　　歴史・地理教育, 36年4月号
- 〃 共産主義の歴史的展望 中央公論, 38年4月号
- ・林健太郎 歴史と現実 新潮社
- 現代社会主義の再検討 中央公論者
- ・ラスキ 近代国家における自由 (岩波現代叢書)
- ・リースマン (松本重治編) 現代文明と人間性
- ・マルクス, エンゲルス 共産党宣言
- ・新英和大辞典 (研究社) 巻末のシノニム解説の中  
　　*freedom, liberal, human*  
　　および辞典部の  
　　*humanism, humanist, humanistic*  
　　*humanitarian, humanitarianism*  
　　*humanity*  
　　*human relation, human torpedo*
- ・広辞苑 (岩波書店) の中  
　　じゆう [自由] 1002~3頁
- ・Benedetto Croce, *History as the story of Liberty*, 1941
- ・E.O. ライシャワー 近代史をみつめる [朝日ジャーナル 1962.6.10, Vol.4,  
　　No.23]
- ・ライシャワー, 林健太郎 近代史の新しい見方 [自由 38年3月号]

〇十一 政治・社会

蠟山政道

一、現代社会とその特徴

1. 近代社会の成立と変化
2. 近代性 (*modernity*) の解剖
3. 変化の動因と状況
  - イ. テクノロジー
  - ロ. 産業化
  - ハ. 大衆社会
  - ニ. ビュロクラシー
  - ホ. 戦争と革命

二、現代社会と人間の問題

1. 生活条件の進歩と改善
2. 労働と遊戯
3. 幸福と不安
4. 成長と再生

### 三、現代社会と自由の問題

1. 進歩と自由の理念
2. 自由主義の変貌と福祉国家
3. 現代の条件に対する自由の問題
4. 日本における民主主義の展望

#### 〔参考書〕

- マンハイム (高橋・青井訳) 現代の診断 みすず書房
- マンハイム (福武訳) 変革期における人間と社会 みすず書房
- E・H・カー (清水訳) 新しい社会 岩波新書
- ( ) 歴史とは何か 岩波書店
- F. パッペンハイム (栗田訳) 近代人の疎外 岩波新書
- Charles Frankel: *The Case for Modern Man*, 1956
- Lewis Mumford: *The Conduct of Life*, 1951

### ○才十二 現代資本主義と社会主義をめぐる問題

安藤良雄

#### 1. 現代資本主義の特徴

現代資本主義における「自由」の問題

#### 2. 社会主義社会における「自由」の問題

社会主義への道程をめぐる問題

#### 〔参考書〕

- 都留重人編 「現代資本主義の再検討」 (34年岩波書店)
- 宇野弘蔵著 「資本論と社会主義」 (33年岩波書店)

法律と自由 — 罪と罰について。

「自由意志と決定論」という問題。

刑罰の道徳的正当化。

〔参考文献〕

- 井上「法律による道徳の強制」  
(雑誌ジュリスト 1962, 11月15号及12月1日号)

講 義 日 程

(講義日時=土曜日才三・四時限 10.20~12.00)

月	日	担 当 講 師	月	日	担 当 講 師
4	20	序 説 (藤 田)	10	26	文 学 (鶴 島)
	27	哲 学 ( )	11	2	) ( )
5	4	) ( )	9		政治・社会 (嶽 山)
	11	圣 济 (安 藤)	16		) ( )
	18	) ( )	30		) ( )
	25	心 理 (波多野)	12	7	物 理 (阿 阪)
6	1	) ( )	14		) ( )
	8	正 史 (尾 崎)	21		法 律 (井 上)
	15	) ( )	1	11	生 物 (太 田)
	22	装 術 (谷 田)	18		) ( )
	29	) ( )	25		) ( )
			2	1	) ( )
9	14	生 活 (稀 垣)	8		セミナー
	21	) ( )	15		)
	28	地 理 (渡辺光)	22		試 験



